

ピルグリムメイデンⅢ

復讐の魔神

狩野景

挿絵／ぼち。



立ち読み版



ジュリエッタ・マッシナ

玲音を補佐する巡礼聖女見習い。かなりのドジで空気の読めない天然系。



アリシア・アルジェント

"銀翼"の二つ名を持つ三真祖の一人。普段は子供っぽく振る舞うが……？



ユージーン・ファウスト・ディオ

"白鎧"の二つ名を持つ不死者の王。女好きでキザな優男。



玉井奈々子

冬馬のクラスメイトで彼に密かな想いを抱く。内気で人見知り。



エリザベート・ボーデン

異端審問局局長。人の身でありながら不死者を圧倒する力を持つ。



桐江霧子

異端審問局特務課の巡礼聖女。感謝無礼でサディストなロリっ子。



オルガ・コルピ

霧子の同僚。無口で無表情。ぬぼーっとしているが根は優しい。



シャルロット・ネイ

"蒼鏡のネイ"の二つ名を持つアリシアの部下。デタラメな花魁言葉を使う。

紅坂玲音

不死者を討滅する教皇庁異端審問局の巡礼聖女。口が悪く傲岸不遜。



斉木冬馬

玲音の手で不死身の身体にされた少年。興奮すると女体化してしまう。

THE
H
C
H
I
C
H
I
E
C
H
I
M
I
N



◎ 序 文	008
◎ 序 章	始動	009
◎ 第一章	崩壊の前日	014
◎ 第二章	奈々子ふたたび	049
◎ 第三章	マグダラの巡礼聖女	103
◎ 第四章	白鎧の陰謀	128
◎ 第五章	究極の聖女	185
◎ 第六章	虹光の魔神	280
◎ 終 章	16years After	310

第二章 奈々子ふたたび

「バカッ!! またポケっと! ——待ちなさいっ、逃しませんわっ!!」
相方の不甲斐なさに苛立ち、霧子がネイに向けてメスを投げようとした。

しかしほぼ残骸と化したサンゲリアの頭部がしつこく尼僧服の裾に噛みついて、彼女をよるけさせる。狙いの逸れた刃が壁に突き立つ中、アリシアとネイは部屋から飛び出していった。忌々しそうに舌打ちする霧子へ、高すぎるジャンプから天井を蹴って急角度に襲いかかる。人間には出来ない動き。玲音によって改造された、眠り人形^{レム}の能力。

「せいっ!」

「くっ! 舐めるなですわっ!!」

縫いぐるみの頭部を切り裂くと自分から仰向けに倒れ、少年の貫手^{ぬきて}をかわす。

落下するように目前に迫った顔目掛けて、いったい何本隠し持っているのだろうか。サ
ージェリー^{レム}を投げつける。

「うおおっ!」

至近距離で放たれたそれを、冬馬は身体を振って全部避けた。

霧子の顔が驚愕を浮かべる。その傍らへとバランスを崩して尻から落ちながら、すぐに
起き上がり構えを取った。

間近で見ると、苺髪の巡礼聖女は全くもって幼女にしか見えない。

アリシア以上に幼げな姿に、一瞬攻撃を躊躇いつつも油断禁物と気を引き締める。

鋭い眼差しは場慣れた戦士のものだ。もう既に次の刃をと、両手が袖口に潜っている。

それより速く蹴りを叩き込もうとして、

「ごめんね、うさたん……」

冬馬は耳元に申し訳なさそうなオルガの呟きを聴いた。

冬馬の角度からは見えない。拳同様に鋌がびっしりと打たれたレガースを着ける長い脚が跳ね上がり、鋭い蹴りを繰り返した。

ドゴオオオオアアアアアアアンツ!!

なにかが側頭部で爆裂した。

一瞬目の前が真っ暗になり、意識が刈り取られる。

(やばいっ！ これやばいっ!! 後ろ、気づかなかったッ！)

頭の中でぐわんぐわんと鐘を乱打するような轟音が響いていた。

早く次の攻撃に備えなくては。構えを取ろうとしてようやく、自分がいま立っていた所から、広い部屋の反対側の隅にまで吹っ飛ばされていたことに気づいた。

しかも仰向けに無防備な姿を晒して倒れている。

起き上がろうとして、身体が動かない。

肩口にチクリと痛みが走って、白地に赤十字の修道服を着た巡礼聖女が顔を覗き込んでいるのに気づいた。

銃把じゅうはのようなグリップの注射器で、なにか薬物らしきものを冬馬に注入している。

「まあ、凄いですわね。シスター・オルガの『ライズ・オブ・タイラント』を頭に食らっ

て十分程度で目を覚ますだなんて」

妙な感心をされる。

仰々しい名称はあの鉦が打たれたナックルダスターとレガースのことだろう。

「でも動こうとしても無駄ですわ。ただいま両手両脚に弛緩剤を打たせていただきましたので、当分は力が入らないでしょうから」

確かにさっぱり力が入らなかった。感覚はそのままあるので麻痺させられたわけではない。とにかく手足がやたらと重くて持ち上げることもないのだ。——いやそれよりも、「十分……だって？」

殴られてほんの少し意識が飛びかけたただけなように思っていた。

まさかそんな長い間意識を失っていただなんて。

「——まさかつ！ ア、アリシアはっ!!」

その間に追撃され、恋人とその同胞は捕らえられてしまったのでは。あるいは、処女の血によって……。最悪の状況を思い浮かべ、顔から血の気が引く。

「残念ながらあなたを確保した時点でわたくしたちのミッシェンは現状にて待機ですわ。逃亡した『銀翼』の捕獲は他の仲間が受け持つことになりますの」

悔しげな様子で教えてくれる霧子の言葉にひとまずホッとした。

危うい状況に変わりはないが、ひとまず身を隠し夜になるのを待ってくれば、こんな連中アリシアの敵ではないはずだ。それよりも、

「オレとアリシアを捕まえてどうするつもりなんだ？」

異端審問局にとつて本来討滅すべき存在の不死の真祖を、殺さずに捕らえようとするなんてなにか思惑があるに違いない。しかもストリゴイでもなんでもない自分にまで、捕まえろと命令が出されているらしい。

このことはやはり玲音とジュリエッタも関わっているのだろうか？

「それと、復活計画ってなんだ？ その対策室って……、あんたら普通の巡礼聖女じゃないのか？」

自分が知る巡礼聖女とは異なる彼女らの名乗りには違和感を抱いていた。

「これ以上は教えて差し上げるわけにはいきませんわ。それにそのような格好でお尋ねになられても、真面目にお答えする気にはなれなくて……ぶ、くくく……」

唇を指先で隠し小さく笑う霧子に、慌てて確かめようと首を持ち上げるとその勢いで長いピンクのウサ耳が目の前に垂れ下がってきた。

「なっ!! う、うう……」

当然のことだが縫いぐるみ生地のコルセットとショーツも着けたままだ。

しかも身体もまだ女体化したままなので、はみ出しかけたおっぱいとか物凄いことになっている。赤面した顔をたまらず背けると、傍らに正座し、熱い眼差しを無言でじーっと注ぎ続けている長身の修道女が「はう〜」と身を振った。

「まあそんなことよりも、次の指示が下されるまで暇が出来ましたので、折角ですから楽

しませていただくといたしましうか」

そして小柄な巡礼聖女の方も、戦いの最中とは打って変わった不安を煽るような笑みを浮かべて、四つん這いに冬馬へとにじり寄って来た。

「出来れば男の子の姿で色々して差し上げたかったのですが、巡礼聖女に情欲を覚えると女の子になつてしまうのでしたよね？ でもそれでも構いませんわ……」

色々ってなんだ!! なんとなく答えを聞きたくない感じで冬馬の顔が引き攣った。

さっきの童顔幼児体型を侮辱され乱暴な言葉遣いでプチ切れた時もだが、いまま潔癖で堅苦しい最初の雰囲気からずいぶん印象が違っている。

「アタシは、女の子のうさたんの方が、いいです……。男の人怖い、から……」

そしてこちらはどうにも捕らえどころのない、無口無表情な大柄娘が正座の姿勢からぐんにやりとつんのめつて、冬馬の下腹部に頬ずりしてきた。

「ほわっ!! ちよ、やめっ、あ、んあっ! く、くすぐりたい!! ふあああっ!」

「うさたん、ふわふわ柔らかくて、気持ちいい……」

女性化している時の肌は男の時よりかなり鋭敏で、しかもくすぐったさにやたらと弱い。こんな露出度の高いパニー衣装など着ていたらひとたまりもなかった。

「だめっ、そんな……はうっ、とこで、動かない、で……っ!!」

恥骨の上辺りをほったで圧迫しながらスリスリされるので、膀胱が押されて尿意が刺激される。しかもツンツン尖った彼女の黄緑色ショートヘアとベールの布地が、剥き出し

の腹を撫でて、へその中をくすぐっていた。

(こ、れ、気持ちいい……、変な気、なる!! は、ああ、あああつ)

手足が動かせないので仰向けの姿勢を変えられない。腰をくねくねと振らせると、ますます刺激されてお腹の奥に変な疼きが芽生えてくる。

「はあ、芥木冬馬……、うさぎおんなのこだったなんて、うれしい」

急激に荒くなってくる吐息の熱さも悩ましい。

「別にッ、い、いつもこんなかつこ、してるわけ、じゃ。くう~~~~~つ、これは、ア、アリシア、が、いきなり、——ひゃううつ!! あああつ、そこだめやめつ! んうッ」

括れた脇腹を不意にさわさわと撫でられ、苦しいほど心臓が高鳴る。なんだか、下腹の内側がキュンと窄まって、じゅわつと熱く粘つこいものが溢れた気がした。

(うそ、だろ? こんな、くすぐりたいだけ、なのに、ぬ、濡れ……。ううつ)

男の勃起と同じで愛液がじゅんつてなるのも仕方のないこと。そう頭では理解したつもりだが、いまだに濡れるたび複雑な気持ちになってしまう。

(オ、オレは男なのにつ、お、女の身体で、女の快感を感じ、濡れてるッ!!)

意識するとなおさらに粘度を増した熱汁が、ちゅぷつと秘唇の内側へしみ出た。「それにしても男の子のくせに生意気なおっぱいですわね」

その女体化少年の当惑を読んだかのように、絶妙のタイミングで呆れ声を放つ。

「——そんなの、オレにだって、どうにも、出来な……はうんっ!!」

なんだか女性化するたびに大きくなってきたのは、気のせいじゃないと思う。

霧子に押搦やっされて、巨乳をからかわれて怒っていた女の子の悩みが分かった気がする。
(結構、肩こるしっ、揺れると痛いしっ、大変なんだぞ！)

ぶちまけてやりたい気持ち堪えると、

「ずいぶんと柔らかいですのね。それなのに、仰向けでこんな形も崩れずに」

ちびっこ巡礼聖女が指先をずぶずぶと乳房にめり込ませた。

「やっ、あああああつ、だめえッ、ンッ！ さ、触る、な、んはああああん!!」

男らしく怒鳴りつけたのだが、張り上げた声は自分で聞いても快楽を誘うような甘い喘ぎになる。驚掴みにされて拉げた片乳がついに耐えきれず、窮屈な桃色チューブトップからぼろんと弾け出た。

「まるつきり女の子ですわね。お乳を揉まれて感じてしまつて、こんな所を硬くしていますわよ」

弾力的に波打つ乳白房を興味深げに捏ねながら、幼女にしか見えない年上女が頭の方から覆い被さってきた。乳揉みに圧迫されて生じた内圧で、ウズウズと切なく勃たち膨らんだ乳首を、唇に啣え込む。

「——ひっ、いぐううっ！ ふわっ、わはあああああつ!!」

熱い唾液に包み込まれて、呼吸が止まるほどの刺激に苛まれた。

オルガの頬ずりに膨れあがっている尿意が、危うく弛みそうになる。

はむはむと乳輪を唇で揉むように刺激しながら、舌が乳首の側面をなぞり先端まで駆け上がる。その先つぽをチロチロとくすぐるように舐めると、今度は乳首全体を舌で包み込んでしまった。

(く、ふあああ、なんで、ここ……お、こんな、敏感ッ!? あひっ!)

ビクン、ビクンと身体が痙攣する。手足が動かないため足指を反り返らせたり、服の裾とかを握り締めたりして紛らわせられないため、快楽の全てが脳に殺到した。

(巡礼聖女って、こんな娘ばかり、なのかよ? ふえあっ!!)

不死者を屠る戦闘の乙女とはいえ、修道服に身を包んだ神のしもべである。しかもみな異性との性交などしたことのない処女のはずだ。

むしろ抑圧された状態が彼女らのセックスへの興味を昂ぶらせているとは夢にも思わず、女性化した肉体の甘美に悶える。

チューブトップの中に潜り込ませた手でもう片方の豊乳も弄りながら、霧子が唐突に敏感乳首を、チュッパァ——ッ! と吸い上げた。

「はわっダメッ!! ン——ッ! 吸ッ吸うっ、んああああつ、吸う、なあああっ!!」
豊房に渦巻く疼きが激しく切なさを増す。

神経の鋭敏度が高まり、怒濤の甘美で冬馬の脳裏を揺さぶり立てる。

息が詰まるほど強烈な刺激だというのに、えも言われぬ愛おしさが沸き上がった。

(ふあ、あ、赤ちゃん、に、吸われたら、こんな……感じ……? ってなにをっ!!)

その胸のときめきが男には芽生えぬ感情と気がつき、全力で否定する。

「ふくん、さすがにお乳は出ませんのね」

当たり前だろ、子供がいるわけでもないのに母乳なんか！ と言いつ返してやりたいが、不意に沸き起こった母性本能への戸惑いに真つ赤な顔で目を伏せてしまう。

「お乳は出なくても、こっちのお汁、すごい……」

くちゅ、ねちゅ……、じゅぷつ！！

全くの不意打ちだった。抑揚に乏しいが微妙な上擦りが興奮を表す声で吹きながら、オルガが鼠蹊部からショートパンツの内側に指を滑り込ませてきた。

「なっ！！ そんな、とこっ、ヒッ！ は、あ、ああつ、やめっ」

大陰唇をめぐられてしまった。

問答無用で快感を膨張させる秘部への刺激に、身体が崩れそうだ。

指に粘膜襞を絡ませながら掻き回されると、ちゅぷ、にゅちゅ、といやらしい音がする。彼女の言う通り、甘美の連続に膣穴から溢れた愛液で女陰はぐちよぐちよに濡れていた。

ジンジンと脈打って、切望の疼きが勢いを増してきている。霧子に乳房を吸われると、奥の方がキュンと窄まり、弛んだ穴口からまたねつとりヌメった汁が零れ出た。

「これ、もう、簡単に……膣内まで……」

——ずぶつ、ぬぶぬぶぬぶ、ぬずず、ずぶつ、ずぶぶんつ！

「ふああああうううつ、あ、うっ！ はああダメつ、だ、あ、んあああああつ！！」

そのぬかるみ穴へと、オルガの指が埋まってきた。

(い、挿入^{いれ}てるうっ！ この娘ッ、オレの膺^{なか}にいつ、指っ、挿入^{いれ}ちやつてるうううっ!!)
何度味わつても慣れることの出来ない、けれど死にそうなほど気持ちよくてたまらない、女の穴に挿入^{いれ}られるという快感。

大切な部分が太い異物に埋められていく悦びに、抑えきれず股間が迫り上がる。

脚が脱力していなければ、大股開きにはしたくない姿勢を晒していたかもしれない。

快感を余す所なく貪ろうと褻が締め付ける。愛液の潤滑がその願いに応えて、埋まりゆく指との擦れ合いを珠玉の刺激へと昇華させた。

「あ、すごい。きちんと子宮もあるんだ」

奥に届くや否や、長身修道女が丸く出っ張った壺口をコツコツと指先で弾く。

「ひあはっ！ あ、やあああっ!!」

男にはない器官を直に揺さぶられ、胸に喜悦が込み上げた。

(あああ、弄られて、る……。中の、おかしな所、触られて……。はあっ！)

強烈な快感を即時に炸裂させる陰核と並んで、女性の身体で発情すると一番困った感じになる所だ。

ここが疼き始めると、男としての理性が利かなくなり女の快楽に流されてしまう。

そんな部分を指先でツンツンと突きまくられ、恥ずかしさが込み上げる。

「んふ、乳首、ますます硬くなりましたわよ。ほんと、お乳出ないのかしら？」

「ふあわっ！ やめるああああ〜〜〜っ！！ らめ、やめっ、はあんっ」
 また乳首をちゅ——と吸われて狂った母性を芽生えさせられる。

「ここ……されると、やっぱり、すごいこと、なるのかな……？」

女体化少年の膺内に夢中な緑髪修道女が、恥骨裏の喜悅スポットを抉り始めた。

「ひあっ！ そこ、はっ！！ んう——ううっ！」

さっきアリシアにもさんざん弄られて絶頂た所だ。

問答無用な快感の予兆に発情した女体が悦び震える。

(だめっ！ そこ触られすぎると、だめえっ!!)

過剰な快楽の苦し紛れに、乳房へむしゃぶりついて覆い被さる小柄修道女の平坦な胸に顔を押しつけた。

「はわ!! な、なにをなさって!! あ、こ、こらあっ！」

尼僧服の上からささやかな膨らみに唇を這わせ、固く突起した乳首を探り当てる。

貧乳の扱いは熟知していた。たちどころに感じるツボを見抜き、むちゅー、と吸い上げながら舌で緩急をつけて転がしてやった。

「ふあああああ。このひと、お上手、ですわああっ!!」

お返しとばかりに霧子も冬馬の乳首に軽く歯を当てて甘噛みした。

「きひいっ！ ふおんあ、ふおこっ」

「指、すごく、締め付けて……。ああ、ここも……」



第五章 究極の聖女 その1

「あひっ！ あつ、くつ、あぁンンンンンッ!!」

目映い閃光が連続して弾けた。快感の芯を直撃された衝撃に、理性が跳ね上げられる。全身が激しく震え、びゅぷつ！ ぶじゅつ!! と熱い飛沫が膣道から溢れかえった。

その股汁がユージーン顔の顔にかかり汚してしまうと思うと、禁忌を犯す背徳の歡喜に身が戦慄いた。

「へあ、あ、しゅごい……、しよんな、とこお……舐め……ふあつ」

身体中が浮き立つような疼きに包まれて自然とくねってしまふ。

外からの邪魔な声が届かぬ結界の中、上質なクツションのような目に見えぬ褥に仰向けとなって、誘いの眼差しをユージーンに投げかける。

途端、その敏感陰核に彼の鋭い牙が突き立った。

「——ひぎつ!?!」

甘い美悦にとろりとなっていた意識が、突然に熱湯を浴びせられた。

「はぎいいいっ！ イッ!? くあああああつ！ ユ……ジイ……ンンンッ!! 痛ッ、や、あああああつ！ ダメッ!! だめえええええええつ！」

幸せに満たされていた脳裏でメチャメチャな衝撃が荒れ狂った。

涙混じりの悲鳴で懇願するが、白鎧は手加減せず、神経が凝縮した肉芽を抉ってくる。「あううっ！ ひあつ!! やだつ！ やっ!! あつ、ああッ！ んうぐうううっ!!」

人間ならば無事では済まない苛烈な刺激も、不死の肉体では傷一つ残らずに味わうこと

が出来る。気が遠くなりそうな激痛が、許容を超えて押し寄せる快感の津波であることを理解し、玲音は全身を激しく痙攣させた。

「も……ッ！ だ、めえええっ!! ユージ、ン、許し……へはあゝゝゝッ!」

気が変になりそう。痛い。キモチイイ。それでも止めない意地悪な牙に泣き言を漏らし、て身悶えた途端、彼の舌先が膣口の内側をなぞって優しく舐め回す。

「んふうううっ!! んひゅああっ! ふあああああわあああゝゝッッ!!」

ぷしゅっ!! ぶじゅじゅっ! びゆるっ!! じゅぷじゅぷじゅばあ——っ!

全身を硬直させる激感からの転落に股ぐらが跳ね上がる。

くばん、と開ききった牝穴から、濃厚な恥蜜が失禁のようにぶちまけられた。

灼熱が渦巻く脳裏が朦朧となつて、苦痛に強張った顔のままにぶちまけられた。りたくる。

「少し激しくした途端にイッてしまうなんて。エッチな娘に育ってくれて嬉しいなあ」

指先で掬った絶頂液をちゅばちゅばしやぶりながら、ユージーンがにんまりと笑みを浮かべからかってくる。

「あう……ンンン……ッ、いぢ、わる……。こんな、されたら……あたし……ッ」

潤んだ目でむくれ顔をし抗議の眼差しを送る。

怖かった。痛かった。でも……キモチよかった。

表情とは裏腹に誘うように身体がくねる。

仰向けで軽く膝を立て、股ぐらを弛ませたその上へと、彼が覆い被さってきた。

長い髪がほどけてちよつと女の子みたいに見える。けれども、その股間からは、華奢で端整な容姿からは想像もつかないくらい太くて長くて、幾本もの青筋が赤黒く充血した幹に浮き立った怒張が急角度に反り返って脈打っていた。

「——えっ？ あ、あぁっ、そんな……。ユージーンのおちん、ちん!! ひうう……」

ギョツと絞ったような括れと大きく張り出したカリの対比が威圧的だ。肉鏃やじりと呼ぶのが相応しい亀頭の先端から止めどなく先走り液が溢れる。その威容をてらてらと鈍く光らせる様に、興味津々で見惚れるが、それと同時に処女の本能が警戒を示してしまう。

「すっかり口を開いている、お前のそこ。私のが欲しいんだね……」

視線に孕んだ脅えをわざと無視してことさらに凶悪な怒張を見せつけてくる。

「——ううっ！ やッ、そんな、あたしは……」

どんなことになつていいのか自分でも分かつている。ジンジンと火照つて開ききつた穴奥からはしたない愛液を零し続ける女陰を指摘され、玲音の胸がキュウンと締め付けられた。

「そんな……大きい、なんて……。ユージーンの……欲しい、けど。あ、あたし」

いざ挿入いれされるとなると、余計に大きく感じられた。

望んでいないはずなのに。この瞬間を夢見たはずなのに。

身体に染みついた巡礼聖女としての習性が、男根への恐怖を増大させる。

（ユージーンに、処女、奪ってもらえる、のに!）

苦しいほど胸が高鳴り、身が強張る。

その頬に、ユージーンの唇が軽く触れた。

「ふえ……っ」

意表を突かれ呆けた声が漏れた。

「緊張しないで。身体を楽にして……」

いじわるにからかってきた声が、一転して優しくなる。

耳元で囁かれ、うっとり強ばりが弛む。喘ぐように息を零したその時に、

ぬぶんっ！

極太な感触がゆるゆるにほぐれたはずの膣口をさらに押し広げて入ってきた。

「——はわあっ!!」

予想外の感覚に背中が波打った。思わず縋るように彼を抱きしめる。

怖い。でも拒絶の言葉を必死に抑え込む。

あたしの初めては、ユージーンにあげる。

幼い心で想った願いがやっとうのだから。

(く……う、これっ、やっぱ、おおき、いつ。んうううっ！)

だがいくらも埋まり込まぬ内に、玲音は絶大な感触に息を詰まらせた。

白鎧の真祖は、ゆっくりと優しく細心の注意を払って挿入してきている。それでも処女

には荷が重い極太に、膣口を目一杯押し広げられると息が詰まった。

粘膜と密着して熱くて硬い物が急かすように脈動している。そのリズムが混迷する記憶の中から、破瓜を忌諱する巡礼聖女の感情を引き出した。

(こ、このまま、挿入られたら……あたし……)

何よりも望んでいたのに。ユージーンのものになることを。

「だ、だめ……」

なのに彼を突っぱねようとする。その瞬間を狙い澄ましたように、みっちり埋まった肉太の先が、とつん、と穴の浅い部分で奥を遮る隔たりに触れた。

「は……ッ！」

軽い鈍痛のような衝撃にビクンと身体が波打った。脅えを堪える目で見上げると、今まで優しく気遣うようだったユージーンが、笑顔のまままで予告なしに強く腰を迫り出した。

——ぬぶづつ！ ぶぢいつ、ずつ、ぶつ、ずぶぶつ！！

「ヒツツツツツ！！ くつ、アツ、ああああああつ！ ツ痛うああああつ」

薄いが丈夫な膜が力任せに突き破られる衝撃が、敏感な濡れ髪全体を揺るがした。

何かがはち切れる重い感触に驚くばかりだった。一瞬何が起こったのか理解出来ず、束の間遅れて、ああ、ユージーンのパニスが膣内に入ったのだとぼんやり思う。

刹那、激しい痛みが股から脳天にまで跳ね上がった。

(あ、あ、あ、あたし、ユージーン、にっ)

嬉しいのかショックなのか分からない。ただじんわりと込み上げてくる大きな感情に、



こらえる間もなく涙が溢れる。ズキズキズキと速まる鼓動に合わせて痛みが脈打つ腔内。その奥へと、氣遣う素振りも見せずに圧倒的な怒張が埋まってくる。

(来……るっ!! なか来ちやうッ! あ、あ、ああ、挿入^{はい}つてきちゃつてるうっ!!)

痛みに呻きながら、玲音は破瓜寸前には拒もうとしていた手で彼をギュッと抱きしめた。「く、ううっ、ああ、はあああっ」

自分からも疼く股間を迫り出して、奥いっぱい腔壁を押し広げる極太を迎える。

ズン、と一番底にある疼きの中心が突き上げられ、潰れ拉げるほどに圧迫された。

途端に、カクカクと腰から内腿までが痙攣して切なさが込み上げる。はしたないとは思っても、彼をもっと感じたくて両脚を男にしては細い腰に絡みつかせしつかりと抱きつく。

「あああ、はう、ううう……。あは、挿入つて、るう、いっぱい……。んう。ユージーンの、あたしの腔内あ。これで、あたし、ユージーンの……」

ふう、ふう、と唸るような吐息が恥ずかしい。身体の内側で一番鋭敏な箇所を占拠して存在を主張しまくる熱竿に意識が引き寄せられっぱなしだ。

これが男のものになるということなのかと、感動にも似た気持ちが始き上がる。

「初めてなのに、根元まで全部啜え込んでしまってるなんて、本当にエッチな腔だな。それに……。ほら、いまもいっぱい締め付けてきている」

「——!! だ、だって。ユージーンと、ひとつになれた、から……」

意識すると狭い壁壁がさらにきゅうんと窄まって、竿肉を締め付けた。

恥ずかしくてもう言葉を続けられずギュツと目をつぶり、照れ隠しにユージーンの唇を自分から奪う。

余裕の笑みでそれを受け止め、すぐに綻んだ唇の狭間で舌を絡ませてくれる。細腰を抱き上げながら、ユージーンの剛直が玲音の腔内を抽送し始めた。

「——ふっ、ああっ!! はううっ!」

せつかく自分からキスを迫ったのに、唾液の糸を垂らして唇を離してしまった。

破瓜の痛みは依然激しく重い脈打ちを腔穴に響かせていた。それでもキツキツに密着した粘膜壁を威圧的な肉太に摩擦された途端、快感が押し寄せる。

ぬぶっ、ぬちゅ、ずぶぶ、くちゅ、ずびゅ。

「はう、いやあ……えっちな、音お……」

少しもどかしいくらいの速度で、丁寧に腔壁を擦って浅い部分から奥までを怒張が出入りする。心地よさに肉壁が収縮を勢いづかせますます竿の感触が強まった。

そのおかげで愛液の量が増えて、ストロークの音を淫靡に高鳴らせる。

(あああ、こんな太いのが……、あたしのなかで、動いてるっ)

腔口のギリギリまで引き抜かれ喪失感が込み上げた途端に、狭く窄まった腔肉をむりむりと軋ませて極太が目一杯に埋まってくる。

大好きな男の物が、一番大事な部分を、一番気持ちのいい所を、制圧していた。

子宮を突き上げて、女の悦びをどろどろに濁った愛液と一緒に絞り出される。

第五章 究極の聖女 その2

先を越され菌囓みする萬田がしつとりと淫靡汁に濡れる薄羽根のようなスカートを捲り上げ、形良く引き締まった尻の房を押し開いてきた。

途端に少年だけではなく、後ろ側の連中が一斉に覗き込んできた。

露わにされた肉門が恥じらうように鳶色の菊髪をひゆくひゆくひくつかせた。

その下方には大口を開けて肉太の男根をたっぷり頬張ったヴァギナが、とろとろと粘度が高い蜜雫を溢れさせて悩ましいヌメリを帯びている。

「お尻い。あはあ、巡礼聖女だった時も、お尻、いっぱい挿入られたあ。だ、からあ……挿入る、なら、直腸、スゴイことさせないと、容赦しないんだから……ひゃわっ！ はあ、あああ……っ」

食い入るような視線に早くも腸液をにちゆにちゆ滲ませて、挿入を申し出る少年の覚悟を確かめっていると、指で掬った愛液を菊門の皺に塗り込まれた。

ぞくんと背筋に熱が奔って、子宮口が密着した鈴口へ口移しで飛沫を浴びせる。

感激の溜息を吐きながら黒須が腰を上下させる中、背後からのしかかるように萬田が尻房の狭間目掛けて股間を迫り出してきた。

（はああ嬉しい、前え、挿入はいってるのに。動いて、るのにつ!! お尻にまでえッ！）

狂おしい期待が沸き上がり、心臓がうるさいほどの鼓動を打ち鳴らす。

じわじわと熱を帯びた怒張が迫ってくるのが分かる。

巡礼聖女だった時数多くの不死者に弄ばれた尻穴はすっかり馴染けられていて、匂い立つ

男根が接近しただけでどうぞとばかりに簡単に弛み開く。

「あひっ!! きたあ、おちんちん、お尻きたあああ」

そこをたちどころに丸々とした肉鋒にくぼうに塞がれた。反射的に括約筋を締めると、ヴァギナまで熱幹をしつかり握り締めるので理性がへなくとふやける。

「ふああああ、挿入ちやうのお!! お尻い、ちんちん、奥まで入れ……ふああああん」
眉根を寄せて鼻にかかった媚声を上げる。

わくわくと浮き立ち、落ち着きなく腰が迫り上がってせつかくはまった勃起肉が肛門の方も膣の方も抜けそうになった。

だが、垂れ流した甘美蜜を吸ってねちよねちよになった濃紺ストッキングの上から太腿をくすぐるように愛撫され、へなへなと脱力にへたり込む。ぬぶぬぶと、再び膣穴の奥までが熱を帯びた硬勃起に満たされる。

後ろの方も、わりわりと肛門を軋ませて、性急な挿入が直腸を占拠してきた。

「ひいぐうううううううううううンンン! はふっ!! あうっ、くううううううあ!」

挿入されるたび処女膜が破かれる膣よりも、慣れた尻穴の方がスムーズに怒張肉を啜え込んだ。ペニスの味わい方を心得ている髯壁が、はしやぐように蠕動して節くれ立った肉幹に絡みつく。

「へあああ、お尻ツイイツ! お尻い、キツキツツ、ふあああ、膣もおつ。はあンンツ、両方とも、ちんぽ、に、イッパイに、され……あ、ふ、きもちい、きもち、イイツ!!」

排泄を催す悩ましい異物感が、まだ経験の足りない膣内の甘美までも導き出してくれる。二穴を余裕なく満たされ、切迫した喜悦の汗がたっぷり滲み出て愛撫の手に掻き混ぜられぬちよぬちよと悩ましい響きを奏でた。もはや薄手のドレスはねちよねちよ糸引く液汁を限界まで吸って、深紅の布地にべっとり張り付いた肌をくつきり浮き立たせる。

「おおっ、お前がお尻に挿入した途端、こっちまで急にっ。締め付けすぎイッ!!」

「うはあっ、さすが玲音さまのお尻ッ!! キツさ半端ないっ。もうたまんねえっ!」

アナルを絶賛され、落着かぬ恥じらいと誇らしい喜悦が入り交じり顔が火照った。

「あ……ううっ、当たってりゆゝ、二つとも、奥う……いっぺんにい、当たって……。ふあ、変、なる……ッ。あふっ! はひっ、あ、あゝゝゝゝゝ♪」

「動き、ますよっ、玲音さまっ」「くふっ、お、俺もっ」

強気な瞳をすっかり呆けさせ、小刻みに身震いする玲音に、少年たちが猛り狂う。

「ひあっ!! や、あああっ! きひやああっ、あんッ、イイッ!! くはあああ、奥ッ、奥、奥うううっ、当たって、ふえええ、飛びゆうっ! はわっ、んもおお、ふああああああっ!!」

ずっ、ぶずぶずっ! ぬぼっ!! じゅぶじゅぶじゅぶっ!

最初から手加減なしの全力で繰り出されるストロークが、膣壁と直腸壁を同時に抉りまくった。リズムもへったくれもない、二人でタイミングを合わせることもしない。

ただ高嶺の花だった美少女転校生の肉体を貪る欲望丸出しの突き込み。

だがテクニクもへったくれもないがむしやらかな動きの予想がまったくつかなくて、不意打ちの快感を呼び起こした。

「ひ……うううっ!! あふっ! 奥ッばつかしいすごひっ。ふあああっ!! あひっ、そちだめっ! お尻のそこおっ、ぬふぬふしちゃ……あ、はううううっ!!」

アナルの甘美に煽られて、膣穴もみるみる内に男根の愉しみ方を会得してゆく。

キツキツな狭穴を潤そうと、絶え間なく蜜を吐き出して脈打つ子宮を乱暴に弾かれ、脳裏が閃光に見舞われ全身が痙攣した。

たぶんたふんと跳ね揺れる乳房に群がり来る不死者たちの勃起が押しつけられ、柔肉がカウパーまみれでぐによぐによ拉げる。

(ふああ、おちんちん……。いつぱい来てるう。おかしくなりそう……。イイ……)

血色のドレスがはだけた素肌にも、幾本もの男根が擦りつけられ、甘美な汗香に饜えた牡臭が混ざり合う。その香気を胸いつぱいに吸い込んで浮かべる玲音の笑みは、好色極まらない淫婦そのものだった。

「ん……ああ、ちんちん、イッパイイ。膣^な肛^か内^あ、欲しい、それ全部う、挿入へえ」

熱く硬く弾力的な独特の感触に這い回られ、むず痒い心地よさに気分が昂ぶる。あつという間に髪の毛まで先走り汁が染みて、くらくらするような淫臭が玲音を包み込んだ。

「あ、はあああ……ン、紅坂、さあんっ」

「んひっ!! もう、ダメ、なるう! だめ、に、して、んふああああ!!」

もうこれからエッチする時には絶対に両方挿入っていないと満足出来ない。

膣もアナルも太くて硬くて熱いのでみちみちにされ、乱暴に突きまくられないと。

女の不死者たちも、他の男たちに挿入されながら紅衣の真祖に擦り寄り、肌へと舌を這わせてくる。彼女たちの胸をまさぐりながら、萬田と黒須のストロークのされるがままになって悶えると、ますます勃起肉は勢いを激しくした。膣と直腸の肉壁越しにそれぞれの男根が、がつがつとぶつかり合い境界線を争う。

「ひぎっ！ んひいっ！！ ひゃうっ！ も、もうっ！！ きひゃうっ、ふあああっ！」

ユージョンに初めてを奪われた時は、その嬉しさだけでイッパイだった。いま自分から貪欲に味わう快楽に、絶頂の予感が沸き上がる。その最中で、悪友に先を越され手持ち無沙汰になった阿鳩が思い詰めた顔つきで向かってきた。

「お、俺……もう、我慢イッパイで……。これ、お願いしますっ、玲音ちゃん!!」

握り締めた手の中でビクビク脈打つ怒張肉を口元に突きつける。

「はへえ〜♪」

龟头を膨らませたグロテスクな形状に、無意識のだからしない笑顔が浮かんだ。

飛び散るカウパーが顔面にへばりつく。鼻孔を直撃する濃厚な牡臭に、ふわ、と唇が弛んだ途端、彼は躊躇うことなくその剛直を押し込んできた。

「んむっ！ あぶっ!! はむうううううんっ！」

一瞬気が遠くなりかけるほどに濃密な汚臭が口いっぱい広がった。

鈴口から溢れ続けるぬめぬめと共に酸味の強い恥垢が舌にこびりつく。巡礼聖女だった頃なら、不快にしか感じなかったおぞましき。

「あふあ！ おいひい!! んあう、臭ちんぽお、味い濃ひ……んはう」
ちゆるる、ちゅぱちゅぱ、じゆる!! ごくつ! ゴクゴクンツ!!

だが唾液に混じった汚濁を、玲音は陶酔の喘ぎを漏らして飲み下した。

「くうツ! 気持ちいいツ!! ああ、玲音ちゃんが俺のちんぽおつ!」

張り出たカリの溝を舌先で刮げて、裏筋を舐め上げながらちゅぱちゅぱ吸引すると感極まった阿鳩が口腔をストロークしてくる。

「んぐつ! ふぎゅつ!! あ、ぐうううつ!」

膣奥と直腸の底を連打する悪友に負けぬ勢いで喉を圧迫され、しかめっ面で呻き声を上げる。苦し紛れに唇を窄め締め付けてやるが、口腔いっぱいのにさばる勃起はむしろ喜び勇んで喉奥へ直接たっぷりと先走り液を注ぎ込んできた。

「へあああつ! ふへあ、美味ひいの、きへ……あひ、かはあああつ!! ふあううつ」

ぬつぶつ、ぬちゆうつ、ぐちよ、ずぶつ、ずぶずぶつ、ぬずぬずぬずぬずツ!!

ヴァギナと直腸のペニスは性急さが収まり、今度は気持ちいいポイントを探るようにじっくりと潤み壁を抉り回していた。玲音がビクンと反応して鼻にかかった悦声を進らせた部分に、集中的な刺激をもたらしてよがり狂わせる。

目が完全にイッてしまった朦朧顔で、男根をイッパイに頬張った口を忙しく蠢かす。

ぐちよぐちよに縊れたドレスはますますはだけ、露出した肌は無数の男根が這い回る。溢れ出た乳房にも、強張り乳首を陥没させて勃起竿がめり込み乳肉の奥を抉るように激しいストロークが繰り出されていた。

「あへえあああ、いイのおっ！ んうううっ!! えっひ、気持ひイッ！ ふわっ、もう、もううううっ!! はっ、ああっ、あはっ、あ……ッ、んああああっ！」

彼女の快楽が伝播したかのように、男根を擦りつける連中の手淫も勢いを激しくする。

カウパーが掻き乱されぐちよぐちよ響く。生臭い発情の香気がむんむん立ちのぼる。

「くおっ、もうこれ以上ッ」「出るッ、ちんぽ射精るッ」「ほわっ、そんな吸つたらッ」

三馬鹿の快楽もピークに昇り詰め、急激に勃起肉がさらなる膨張を催した。

「——ひうっ!! ふわあああうううっ！」

歡喜の限界に収縮した前後穴が、力強く押し返されて玲音が動転した。膣と尻を満たす二本に小突かれ続けた子宮が、キュンと窄まり強い脈打ちを得て膨らんだ。

ぶびゅあっ!! どびゅどびゅどびゅっ! びびゆるるるっ、どっびゅうう——ッ!!

その途端、強烈な射精の奔流が子宮と腸底を同時に直撃する。

「はぎいっ！」

灼熱が前後の敏感穴を満たす。圧倒的な液圧に歡喜のたがが外れた刹那、

どぶっ! どびゅびゅっ、どびゅどびゅどびゅどびゅっ!!

「ふぶああああっ！」



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義元が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

待たせたら

毎月中旬
発売!!

18歳未満の方は
購入できません

18

漫画：老眼
原作：斐之嘉和
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価/690円(税込)



全国書店で
好評発売中

**少女天使の暴走が
平和な学園生活を破壊する!!**
シリーズ急展開のバトル&エッチ!!

「小説…さかき傘 / 挿絵…天海雪乃」

思春期なアダム4 聖域の崩壊



「小説…さかき傘 / 挿絵…天海雪乃」

呪詛喰らい師2
「小説:蒼井村正 / 挿絵:或十せわか」

全国書店で
好評発売中

**凄腕退魔士の咲妃を
牝奴隷に墮とす新たな敵の登場!**




全国書店で
好評発売中

**クトゥルフの娘たちが
学園祭でメイドさんに変身!?**
ルルらちに新たな邪神が這い寄る!

「小説…羽沢向 / 挿絵…ヒエール☆よしお」

魔海少女ルルイエ・ルル2

既刊LINEUP

- 仙道学園戦姫 / プナガリ ①~③
- ビルグリムメイデン ①~③
- 不死の吸血鬼がDSのご主人様を募集しているようです

- 思春期なアダム ①~③
- 呪詛喰らい師【カースイーター】
- 女神メル様のセカイ征服計画!

- 借金お魔クリス ①~③
- 無敵の姫騎士がPMに目覚めたようです
- 宇宙海賊学園ブラックキャット



あとみつく文庫

既刊情報

ピルグリムメイデン

深紅の巡礼聖女

チェーンソー片手に深夜の街を駆け抜けるシスター玲音。彼女は最近不死者たちとの戦いがなくて欲求不満気味。そんな少女の前にユージーンと名乗る不死者が現れる。彼はなんと失われた玲音の過去を知る者だった。明らかにされていく巡礼聖女の辿りし遍歴——そのすべてが繋がった時に見える衝撃の真実とは!?

小説●狩野景

挿絵●ぼち。

全国書店で
好評
発売中

ピルグリムメイデンⅡ

白装の騎士

チェーンソー片手に深夜の街を駆け抜けるシスター玲音。彼女は最近不死者たちとの戦いがなくて欲求不満気味。そんな少女の前にユージーンと名乗る不死者が現れる。彼はなんと失われた玲音の過去を知る者だった。明らかにされていく巡礼聖女の辿りし遍歴——そのすべてが繋がった時に見える衝撃の真実とは!?

小説●狩野景

挿絵●ぼち。

全国書店で
好評
発売中詳しくはKTCの
公式サイトで <http://ktcom.jp/>



あとみっく文庫

既刊情報

仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

第一次水着大戦

超能力者の少年少女たちが集う特殊な学園——西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。それぞれが仙獄島の覇権を求め、ちょっとHな三つ巴バトルの幕が開ける!! 平和なはずのミスコン勝負は、暗殺騒動が起きたり水着美少女が縄で緊縛されたり触手生物が現れたりで、とんでもない方向に進んで——!?

小説●斐芝嘉和
挿絵●SAIPACo.

全国書店で
好評
発売中

仙獄学艶戦姫ノブナガツ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

絶対的な権力を誇る北宮学園の生徒会長の座を競い、義元、氏康、晴信ら北宮三大美女はもちろんのこと、長尾く美姫)景虎、宇佐美く奈々)定満といった新ヒロインも加わり、エッチにバトルを繰り広げる!! 敗北したヒロインは勝者の奴隷に!?

小説●斐芝嘉和
挿絵●SAIPACo.

全国書店で
好評
発売中

詳しくはKTCの
オフィシャルサイトで <http://ktcom.jp/>



仙獄学艶戦姫ノブナガツ！参

信玄、出陣！

北宮学園の生徒会長選挙戦も大詰め。肉欲に堕ちた義元と氏康を従えた景虎は、更なる戦力の拡大を図る。そんな中、信玄は元凶である按針を倒そうと信長に協力を求め、聖ジョウントのエリザは封印された化け物を発見する。様々な思惑が交錯する物語は佳境を迎え、信長は姦落の危機に陥るのだが!?

小説●**斐芝嘉和**
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で
**好評
発売中**

BLANGEL

輪になりて踊る患者の夜

月下の街を紅に染め上げる、鮮血のサスペンスアクションの幕が上がる! 吸血姫アリシアは異形の生物「被験体」の影を追って戦い続けるが、予想もしない反撃に遭って虜囚の辱めに晒されてしまう!! 『隔月刊コミックヴァルキリー』の長期連載人気漫画が待望の小説化!

小説●**夜士郎**
原作・挿絵●**渡瀬行人**



全国書店で
**好評
発売中**



あとみっく文庫

既刊情報

思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
好評
発売中

思春期なアダム 2

背後をならう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！“蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
好評
発売中

詳しくはKTCの
オフィシャルサイトで <http://ktcom.jp/>



借金お嬢クリス

42兆円耳を揃えて返してやりますわ

異世界の住人・ジグレットの奸計で父を失い、突如無一文となった令嬢クリス。なんとその借金額は42兆円! クリスは借金取り立てに現れた武装精霊ガーランドの力を借り、ジグレットへ借金返済の戦いを挑むことに! 果たして、傲岸不遜な令嬢はセレブな日常を取り戻し、己の貞操を守ることができるのか!?

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

借金お嬢クリス2

42兆円踏み倒してやりますわ

セレブから無一文に転落したクリスは、借金を返すために今日もバイト&バトル!? 水着コンテストで痴態を晒し、工事現場で肉体労働&ガーランドからの肉体調教と、八面六臂の活躍(?)に加え、ライバルのロリ令嬢、サキも加わり、エッチ&借金バトルはより熱く燃え上がる!

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- 雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- 二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ジャンル別**で作品も選べて超便利!
来かねる場合がございませう。い場合、お手数ですが再度お問い合わせください。
- 二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

VALKYRIE



<http://www.comic- Valkyrie.com/>

cranberry



<http://www.cran-berry.com/>

mille-feuille
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!